

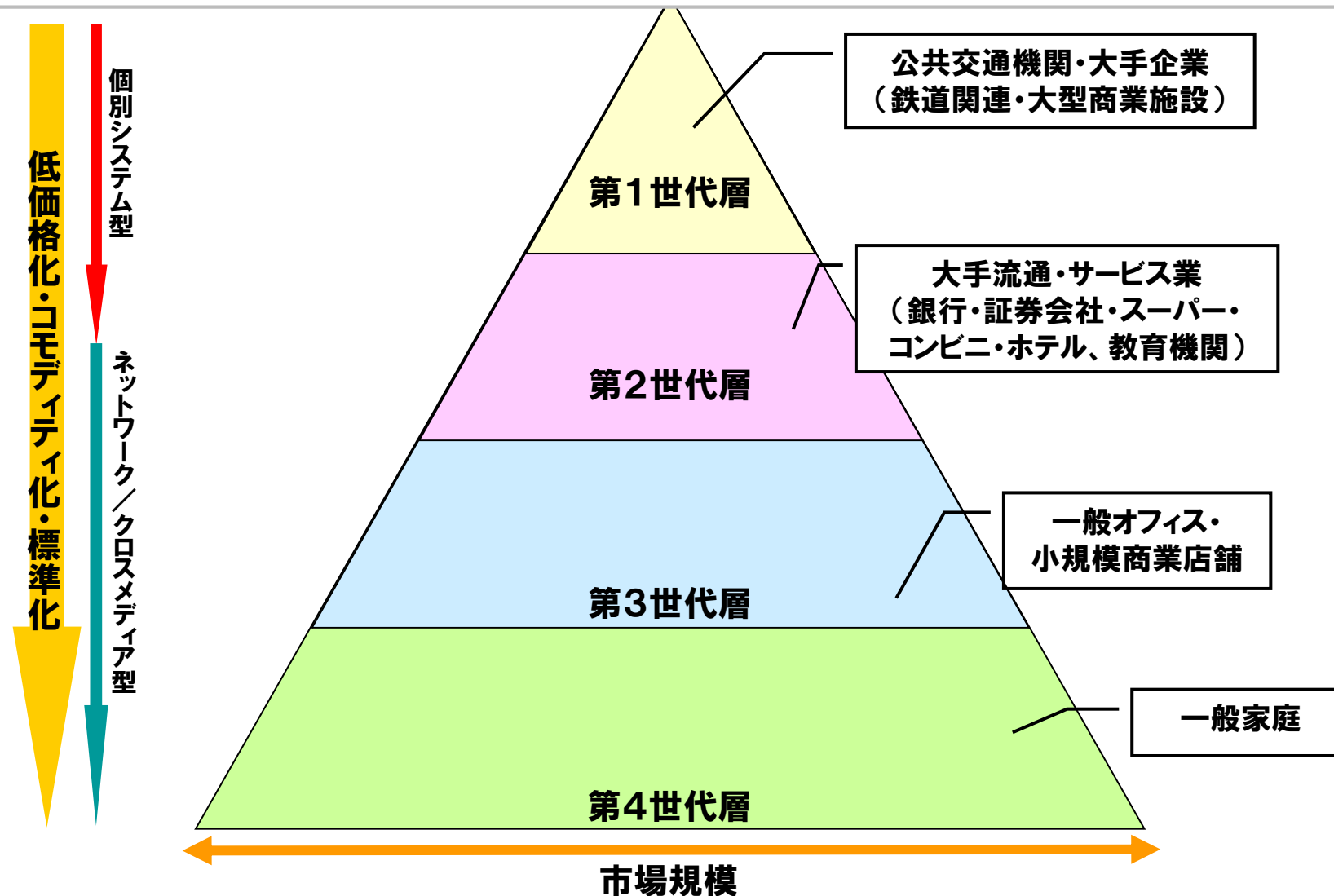
デジタルサイネージの標準化動向

2011年10月14日

デジタルサイネージコンソーシアム
国際標準戦略部会

デジタルサイネージの広がり

- 国内では、第1～第2世代層へデジタルサイネージシステムの導入が進んでおり、今後は、システムの低価格化やネットワーク化により、第3～第4世代層へ利用の裾野が広がり始める
- 海外では、アジアを中心とした新興国において、第1～2世代層への導入が広がることが予測されている



デジタルサイネージの標準化方針と進捗状況

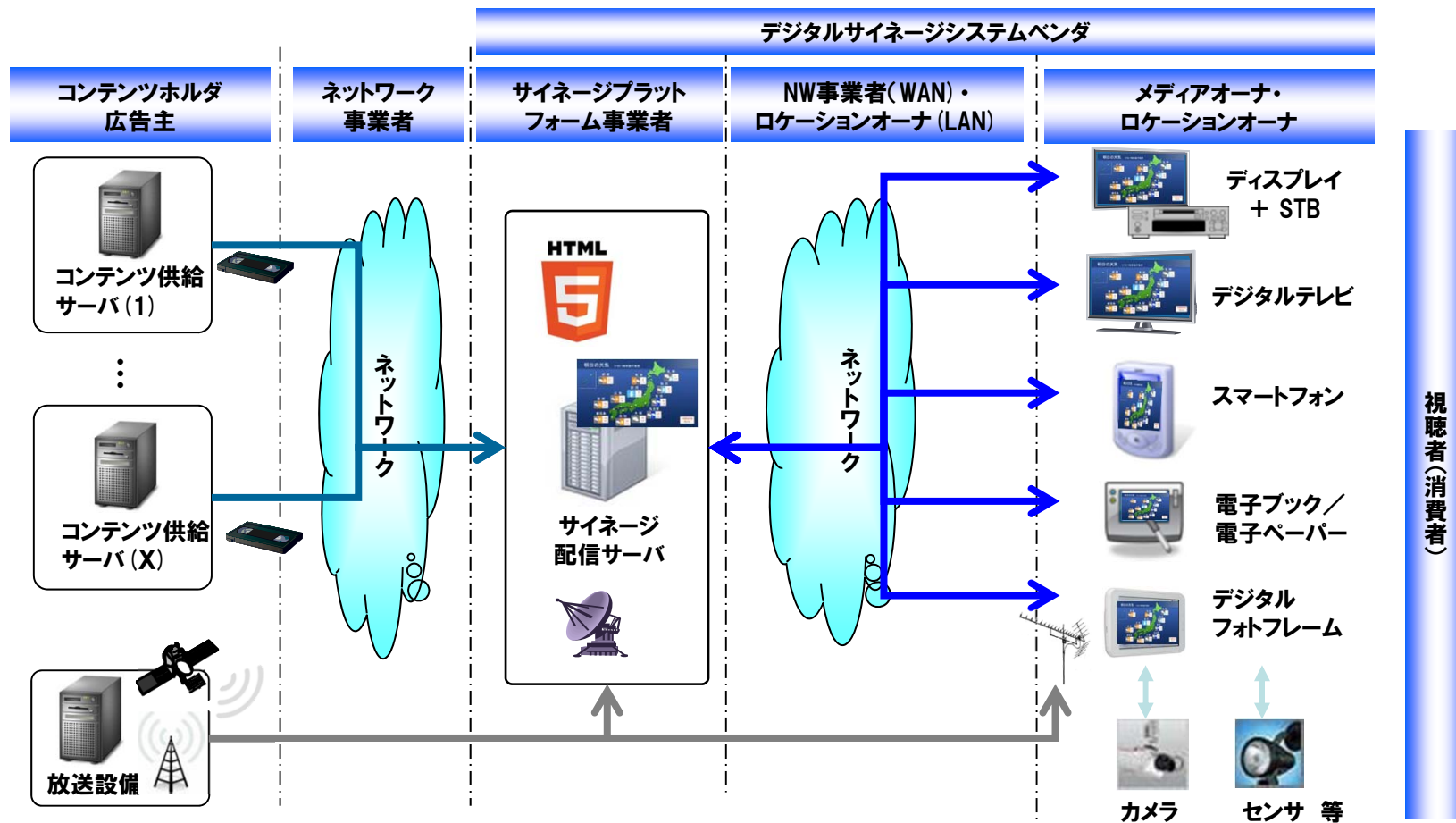


- ITU-Tにおいては、国内メーカーの既存システムの仕様が反映されたDSCのガイドライン、ガイドブックをベースにフレームワーク等を勧告化することで、国内メーカーの海外進出拡大を推進する
- W3Cにおいては、新たなユースケースを想定した、日本発の新たなサイネージシステムの開発を促進することで、国内メーカーや新興企業の事業を推進する

分類	標準化の目的	標準化機関	勧告内容案/勧告化目標	DSC部会での標準化作業の状況
ハイエンド/ ミドルエンド (既存システム)	アジア等新興国 を中心とした海 外市場の拡大	ITU-T	<ul style="list-style-type: none"> •「H.FDSS(Framework of Digital Signage Service)」 -定義 -災害対応含むユースケース -システム概要、アーキテクチャ 等 <p>•2012年5月</p>	<ul style="list-style-type: none"> •DSCシステム部会「DS標準システムガイドライン1.0」、「DSガイドブック」をベースに議論し、寄書を作成 •7月、9月のITU-T会合にて、日本案の寄書が承認される等、標準化作業が順調に進展
ローエンド (新規システム)	国内市場、及び、 海外市場の開拓	W3C	<ul style="list-style-type: none"> •「Web-based Digital Signage」 -管理手法/ワークフロー、コンテンツ 共通フォーマット -配信サーバ～端末間IF、通信 プロトコル -端末～外部機器間のIF 等 <p>•2012年～?</p>	<ul style="list-style-type: none"> •Web-based Digital Signageに関するユースケース/要求要件/要求仕様等の検討開始

Web-based Digital Signageの概要

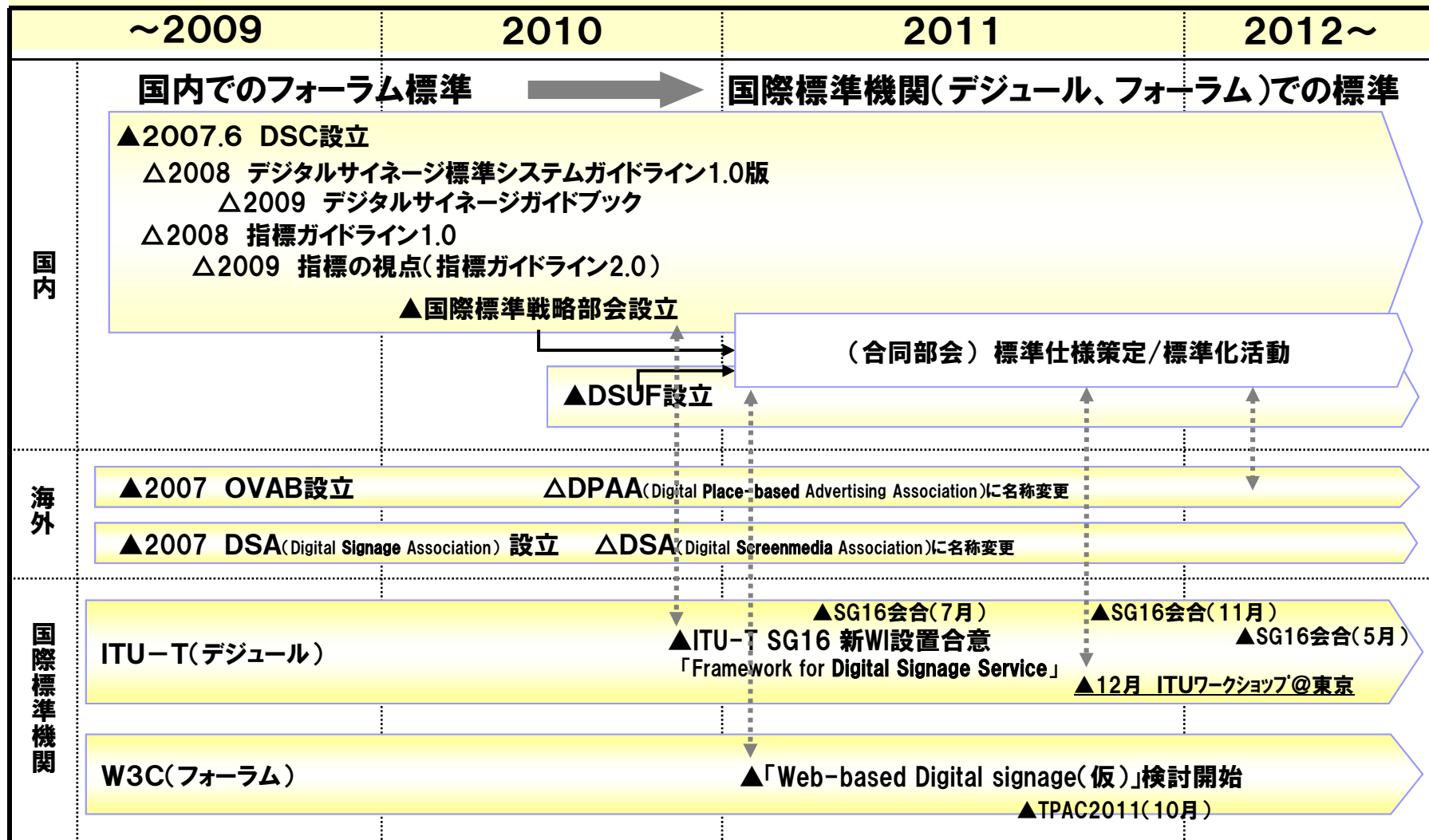
- 標準化項目
 - ①管理手法/ワークフロー、コンテンツ共通フォーマット
 - ②配信サーバ～端末間のIF・通信プロトコル
 - ③端末～外部機器間のIF



スケジュール



- サイネージベンダ、通信事業者等をメンバとするDSC国際標準戦略部会にて、積極的に標準化活動を推進
- W3C、ITU-Tへの提案、議論を開始し、本年12月にITU主催のワークショップを計画中



※DSC:デジタルサイネージ・コンソーシアム、※DSUF:デジタルサイネージ・ユーザーズ・フォーラム